

学んだことを実生活に生かすことのできる児童の育成

～「命を守る」ための学習を通して～

1. 設定理由

地震大国と呼ばれる我が国日本。阪神淡路大震災や東日本大震災をはじめとして、日本はこれまで多くの地震にみまわれてきた。その度に、地域の安全対策や、各家庭での地震対策などについて様々なメディアが取り上げた。学校現場においても避難訓練などは毎年行っているものの、実際の大規模地震が学校にいる時のみ発生するとは限らない。児童一人ひとりが、自らの「命を守る」ための知識や日ごろからの準備が必要である。

そこで本単元では、地震は恐ろしいものとだけ捉えるのではなく、地震についての正しい知識を持てるようにし、大規模地震という事態に対して「命を守る」ためには何が必要なのかを知り、発信し、実践することができる力を育てたい。また、その過程を通して、児童自身が学習の中で身に付けた知識等が実生活の中で生かせるという実感をもてると考え、本主題を設定した。

2. 研究仮説

[仮説1] 身近な人材を活用することで、児童が学習を進めて得た知識を、自分自身のことや住む地域のこととして捉えることができるようになり、実生活の中で生かすことができるようになるだろう。

[仮説2] 児童自身が、自分の変化・成長を感じながら学習を進めることによって、得た知識の有用性を感じ、より探究的な学習となるだろう。

3. 研究内容

- (1) 児童や地域の実態に即した2サイクルの学習の展開
- (2) 「災害想定クエスチョン」を用いた、シュミレーションによる自己評価
- (3) 学習によって得た知識を、実生活に生かしていくための工夫

4. 結論

- 友達と協力しながら調べたり、話し合ったり発表したりする学習を通して地震に関係する正しい知識を得ることができた。
- 地域の人材の活用によって、児童が、自身の課題と捉えることができ、探究的な学習をすることができた。
- 児童はシュミレーションによる自己評価によって、自らの地震に対して持つ知識や考え方などの変化に気付き、今後のために備えていこうという意識を持つことができた。

1. 研究主題 学んだことを実生活で生かすことのできる児童の育成
～「命を守る」ための学習を通して～

2. 主題設定の理由

(1) 今日の課題から

我が国日本は、四方を海に囲まれており、その海から多くの恩恵を受けている。また、美しい自然にも恵まれており、海外から多くの観光客も訪れている。しかしその一方で、大きな自然災害が発生することもある。平成23年3月11日に発生した東日本大震災ではマグニチュード9.0という凄まじい地震と、それに伴う津波によって多くの死傷者、行方不明者を出し東北地方に甚大な被害をもたらした。今なお復興に向けさまざまな活動がなされている。また昨年の4月16日に熊本県を中心とした地域でもマグニチュード7.3という大きな地震が発生し、甚大な被害をもたらした。私たちの住む千葉県を含む首都圏は、今後30年以内に大規模な地震が起こると予想されて久しい。防災については例年避難訓練を実施しているが、学校にいて、大人が身近にいるという状況下以外でも地震に遭遇する可能性は常に存在している。地震発生時に、どうすればよいのかを考える学習は、どの児童においても必要であるといえる。この学習を通して児童自身が自らの命を守り、また身近な人たちの命をも守る方法を身に付けてほしいと考え、本主題を設定した。

(2) 地域・児童の実態から

高洲小学校は、千葉市の南西部美浜区に位置しており、東京湾、千葉港にも大変近く、海に面した学校といえる。また高洲団地に囲まれており、ほとんどの児童はそこから通学している。近隣団地の入居者の減少などもあり、6年前に高洲第一小学校と高洲第二小学校が合併してできた全校290名の中規模校である。

学校の近くには浅間神社や、民間航空記念館、ワイン王で知られる神谷伝兵衛の旧別荘などがある。

本学級の児童は28名(男子15名、女子13名)おり、明るく活発で好奇心が旺盛な児童が多く、新しいことを知ったり、できることを増やしていったりすることに意欲的である。しかしその半面、総合的な学習の時間については「とても得意」、「どちらかという得意」と答えている児童が若干多いものの「どちらかという苦手」「苦手」と答える児童と、およそ半数ずつとなっている。また「総合的な学習の時間」の中で好きな活動についての質問では「情報収集」と答える児童が57%と最も多く、次いで「まとめ・発表」が21%であった。これは、「総合的な学習の時間を通して身につけている力は何か」という質問の回答の結果とほぼ一致する。「課題設定」や「整理・分析」といった、より能動的な態度が求められる学習に対して苦手だと感じている傾向があると考えられる。

地震についてのアンケートでは、「大地震が起こったら、怖い」という質問に対して、71%が「怖い」「とても怖い」と答えた。「どのようなことが起こると思うか」では、「津波」や「建物の倒壊」、「液状化現象」という答えが多かった。その一方で「準備をしているか」の質問に対しては25%の児童が「何もしていない」と答えた他、「家の人がやっているようだ」と答えており、地震に対する恐怖心はあるものの防災については、ぼんやりととらえて

いることが伺える。また、「大地震が起こったら、自分が助かることができるか」という質問についても71%が「助かることができる」と答えているが、その理由は「避難訓練をちゃんとやっている」「先生の指示に従う」というものであった。「分からない」と答えた児童の中には「学校以外で起きたらどうなるのか分からない」と、学校以外でも巨大地震に遭遇する可能性を考えているようであるが、そうした事態を想像している児童は少なく、漠然と助かることができると考えている。地震というものが、児童が思っている以上に身近な危険として存在していることを意識させ、自らや、周りの人たちの「命を守る」ことに少しでもつながっていきと感じられるような学習にし、自らの学習が、実生活の中でも生かされるのだという実感を持たせていく必要があると考える。

3. 研究仮説

【仮説1】 身近な人材を活用することで、児童が学習を進めて得た知識を、自分自身のことや住む地域のこととして捕らえることができるようになり、実生活の中で生かすことができるようになるだろう。

学習を進める過程で得た知識等を、自らの生活に生かしていこうという気持ちを持つことは、簡単ではない。児童が進んで実生活に生かそうとするためには、得た知識や技能を、自分や自分の生活まで落とし込む必要がある。そのためには得た情報をそのままとめ、発表するだけではなく、身近な地域の人材を活用することで、地域の実態を知り、児童が調べて得た知識が自分や自分の身近な地域の問題に当てはまるのだということに気づき、実生活の中で生かす気持ちを育むことができるのではないかと考えた。

【仮説2】 児童自身が、自分の変化・成長を感じながら学習を進めることによって、得た知識の有用性を感じ、より探求的な学習となるだろう。

地震についての学習を進めていくにあたっては、体験的な学習活動を行うことがなかなか難しい。起震車等の活用も考えられるが、児童自身が「命を守る」という視点をもてずに揺れを体験しても有意義な学習になるとは考えにくい。そこで、本単元では、「災害想定クエスチョン」を行うこととした。これは児童が実際に生活する場で、大地震に遭遇した場合、どのような行動をとるのかということを考え、どうしてそのような行動をとったのか、その行動をとった場合、どうなるのかを考え話し合える活動となっている。絶対的な正解はなく、児童がどのようにすればより「命を守る」ことにつながるのかを深く考えるために有効だと考えた。このシミュレーションを、学習の導入と振り返りに取り入れることで、児童は地震や震災に対する見方・考え方や「命を守る」ための知識・技能が学習前と学習後では変化していることに気付くことができ、その有用性を感じられるだろうと考えた。

4. 研究の実際

(1) 単元の目標

○地震が起きた際の身の守り方や、避難の仕方などを考えたり、意識したりすることができる。

- 「命を守る」ことについて調べて得た情報を整理・分析し、どのようにすれば、「命を守る」ことができるのかを発信することができる。

(2) 本単元で身に付けたさせたい力

気づく力	追究する力	表現する力	生かす力
<p>・被災した場合、「命を守る」ために自分に何ができるのかを考えることができる。</p>	<p>・「命を守る」ための情報を収集し、自分や他の人の「命を守る」ために必要なことを整理・分析することができる。</p>	<p>・相手や目的に応じて表現方法を考え「命を守る」方法を発信することができる。</p>	<p>・学んだことをもとに、将来地震に遭遇した時に、何ができるか考える。</p> <p>・地震について様々な考え方やものの見方を学ぶ中で、自分の意見や考えを深める。</p>

(3) 学習活動の展開

過程	主な学習活動
第1次	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">自己評価【仮説2】との関わり</div> <p>【課題の設定】</p> <p>導入で東日本大震災に関するDVDを観た後「災害想定クエスチョン」を行い、自分たちが大地震に遭遇した場合、どうするのかを話し合った。</p> <p>話し合ったことで、今、地震が起こった際に、自分たちは本当に助かることができるのかという疑問を持ち、「命を守る」ためには何をすればよいのかという児童から出た必要感から課題を設定し、学習を始めた。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">大地震が起こったときに「命を守る」ためには何をすればよいのだろう</div> <p>児童の希望と、学級の実態を考慮しグループを以下のように分けた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li style="display: inline-block; width: 45%;">○大地震の被害グループ <li style="display: inline-block; width: 45%;">○大地震の避難の仕方グループ(屋内・屋外) <li style="display: inline-block; width: 45%;">○必要な防災グッズグループ <li style="display: inline-block; width: 45%;">○大地震の歴史グループ <li style="display: inline-block; width: 45%;">○地震被害にできるボランティアグループ <p>【情報の収集】</p> <p>社会科の学習「わたしたちの生活と環境 自然災害を防ぐ」と連携しながら本や、PCを使い情報収集を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでに起こった大きな地震における、具体的な被害について ・大地震発生時の場所ごとの初期動作からの避難の仕方 ・身の回りにあるものを利用した、避難生活グッズ

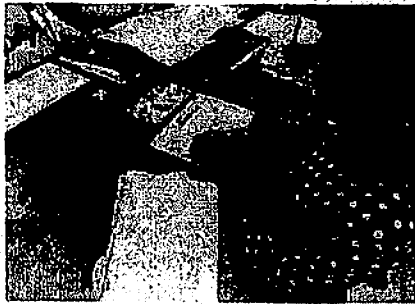
- ・事前に準備をしておく非常持ち出し袋の内容や、食料飲料水などの必要量や確保
- ・自分たちができる被災者に対してのボランティア



身の回りにあるもので、水を濾過する装置ができることを知り、実際に作って濾過を行った児童。

[整理・分析]

収集した情報をもとに、どのようなことを、誰に伝えればよいのかを話し合った。



- ・収集した情報を、個人で整理し、その後「命を守る」ためには、どのようなことを伝えるべきなのかをグループで話し合った。

[まとめ・表現]

11月に行われる学習発表会で、各グループが「命を守る」ために必要な知識や、事前の準備などについて、児童や保護者の方々に発表をした。



非常食や防災グッズを、実際に展示したり、応急手当の実演をしたりした。

自己評価【仮説2】との関わり

学習発表会后に、再び「災害想定クエスチョン」を行い、自分の身近な地域で大地震に

遭遇した場合、どうするのかを再び考え、話し合った。

話し合いの中では、日頃の準備や防災意識を持っていないといけないこと、自分一人だけでは、より多くの「命を守る」ことができないのではないかといったことが話題となった。

課外

児童が生活する高洲地区で、防災士の資格を持ち、地域の防災について様々な活動に取り組んでいる方をお招きし、地域で行われている災害対策などについてお話を伺った。

地域の方との関わり【仮説1】との関わり



第2次

【課題の設定】

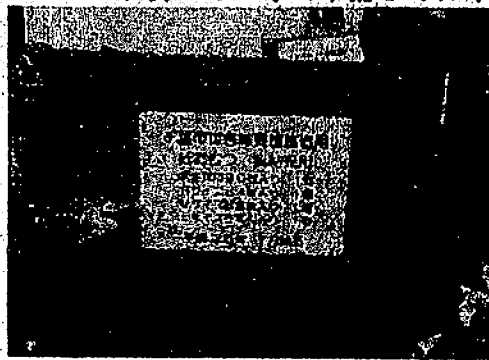
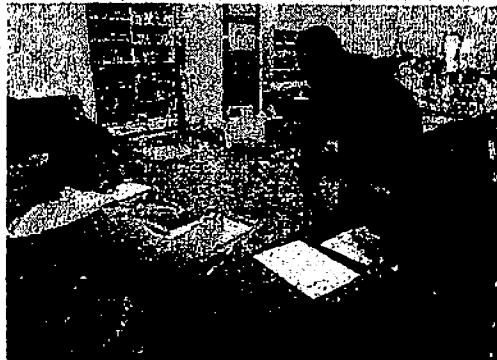
地域の方からのお話をもとに、自分だけではなくより多くの人の「命を守る」ためには、何をすればよいのかを話し合い、2サイクル目の課題設定を行った。

みんなで考えよう！高洲の町の地震防災

【情報の収集】

1サイクル目で知りえた一般的な知識を、地域の実態に即したものにするために以下のグループに分かれ、情報の収集を行った。

- ・高洲地区で予想されている被害
- ・高洲地区の避難場所や、安全な場所
- ・高洲小学校（指定避難場所）での対策
- ・自分たちの家で準備しておく物



学校の防災対策について教頭先生よりお話を伺い、備蓄されている物を確認した。

【整理・分析】

収集した情報を整理・分析する際にも、児童自身だけではなく、地域全体の方の「命を守る」ためにどのようにすればよいのかを常に中心にして考えた。

【まとめ・表現】

地域の方との関わり【仮説1】との関わり

児童たちの、地域の方に伝えたいという思いから、防災士の方を通じて、地域の方をお招きし、「その時、命を守る～考えよう高洲の町の地震防災～」と題して、発表会を行った。



地域の方に、高洲の町の地震時の実施の被害や、避難場所、負傷した場合の応急処置の方などを伝えた。

自己評価【仮説2】との関わり

最後に振り返りを行い、児童は自身の防災意識の高まりを感じられることができた。

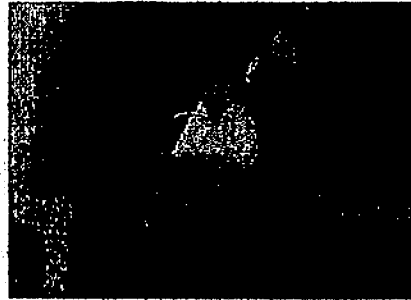
5. 仮説に関わる活動

仮説1について

○地域で防災士の資格を持つ方との関わり

児童は、学習を進める中で、地震に対する様々な知識を身に付けることができた。しかし、同時に本やインターネットで得た知識が、実際に生かせるのかという疑問も生まれた。そこから、自分たちが普段生活する場で大地震が発生した場合、どの場所が危険なのか、どの場所が安全なのかなど、知りたいという思いを持ち、地域の方で、防災について詳しい方がいるということを知り、話を聞きたいという思いを持った。

防災士の方には、東日本大震災の時に、高洲の町でどのようなことが起こったのか、現在の高洲の町に住む方の防災意識についてなどを中心にお話をいただいた。



○地域の方への発信

防災士の方のお話から、高洲の町に住む方たちの防災意識の高まりがなくては「命を守る」ことに繋がらないと感じた児童は、自分たちが身に付けた知識や技能を地域の方に伝えたいという思いを持った。そこで2サイクル目のまとめとして地域の方に、高洲の町の地震防災について伝えるという課題を設定した。様々な学習の場において、「地域の方に命を守る方法を伝える」という明確な課題を持って学習を進めた。



仮説2について

○「災害想定クエスチョン」を活用した振り返り

地震についての学習は、その成果を示すことが難しい。そこで、自分の身近な場所で大地震が発生した場合に、自分ならどのようにするのかという実態に即したシュミレーションをゲーム方式で課題設定の前と第1次、第2次の振り返りに行った。同じ想定であっても、学習を進めて知識を得たことで、自身の対応の変化を感じることができた。また、シュミレーションの結果を話し合う活動を通して、地震災害について多角的に考えることができるようになり、防災意識の高まりだけではなく、学校での学習が、実際の生活の中で生かすことができるという実感を得ることができた。

と考える。

◇「災害想定クエスチョン」を行った後に、児童同士が、どうしてそのような行動を取ったのかを話し合う場を持ったことで、自分にはなかった考え方や、正反対の意見を目の当たりにした。地震発生場面では、どのような判断、行動が正しいのかは一概には言えず、こうした活動を通して児童は様々な角度から物事を見たことが「友達の考えを認める」ことの上昇につながったと考える。

◆児童は自らが行った「災害想定クエスチョン」を振り返ることで、自分の考え方や知識の量についての変化を感じることができた。しかし、前述したとおり、その変化が良いことなのか、そうではないのかという判断が難しく、児童自身が戸惑う場面も見られた。児童の変化や、自分にとってプラスであることが一目で分かるような数値化の方法等について熟考していく必要がある。

資料

資料1

平成28年度「総合的な学習の時間」全体計画

小(123) 千葉市立高洲小学校

<p>＜児童の実態＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明るく素直だが、消極的な児童が多い。 ・学校の統合を経験したが、分離開なく仲が良い。 ・学習に真面目に取り組むことができるが、自分で考えたり方法を工夫したりすることが苦手である。 	<p>＜学校教育目標＞</p> <p>やさしい子 かんがえる子 たくましい子の育成</p> <p>めざす児童像</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人を思いやる子ども ・進んで学ぶ子ども ・たくましい子ども 	<p>＜地域の実態＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・団地が多く、小さなショッピングセンターなどの商業施設がある。 ・町内活動として伝統的なお祭りがあり、地域で活性化しようとしている。
<p>＜保護者の願い＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習習慣を身に付け、基礎基本をしっかり学んでほしい。 	<p>＜学校において定める目標＞</p> <p>○様々な活動や体験を通して、主体的に学習に取り組み、自己の課題を追求する態度を育成するとともに、人やものとよりよく関わり、学んだことを学習に生かそうとする。</p>	

＜育てようとする資質・能力及び態度＞

	3・4年	5・6年
学習方法	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの生活を見つめ、課題に気付く。 ・課題解決のための色々な方法を知り、資料を集めたり、調べたりする。 ・調べたことをもとに、発表の仕方を工夫し、意見や考えを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題や課題を主体的に捉え、進んで解決しようとする。 ・課題解決の方法や手段を考え、情報の収集、整理、分析をする。 ・相手や目的に応じて表現方法を考え、情報を発信する。
自分自身	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見や考えをもつ。 ・人やものとの関わりや学んだことを、自分の意見や考えに生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学んだことをもとに、自らの生活や将来を見つめ、何ができるかを考える。
他者や社会	<ul style="list-style-type: none"> ・人やものとのつながりに気づき、積極的に関わりながら、協力して課題を解決しようとする。 ・様々な考え方やものの見方があることを認める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人やものと主体的に関わり、協力して課題を解決しようとする。 ・様々な考え方やものの見方を学ぶ中で、自分の意見や考えを深める。

	学習	学習事項
地域	自分たちが暮らす地域の歴史や伝統文化、産業を支える人々や施設の様子や問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の地理的、文化的特色や歴史 ・地域の人々の取り組み(祭りなど) ・学校の歴史や今昔の生活の違い
環境	身近な自然環境とそこに起きている環境問題	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な自然の存在とそのよさ ・環境問題と自分たちの生活との関わり
国際	様々な国の生活の様子や文化	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の国々の生活や文化 ・異なる文化との関わりや交流
福祉・健康	体の不自由な人々の暮らしや自分たちの生活習慣やその問題	<ul style="list-style-type: none"> ・手話や点字などの体験やバリアフリー ・自分たちの生活習慣と健康との関わり
生き方	自分と関わる人やもの、自分自身	<ul style="list-style-type: none"> ・家族と地域と自分との関わりや成長 ・地域で働く人の存在と働くことの意味 ・社会の一員としての自分自身や将来の夢
食	食にかかわる問題やより良い食生活	<ul style="list-style-type: none"> ・より良い食生活を目指す取り組み ・食の安全や食糧確保と生活との関わり
情報	情報発信の取り組みや生活の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な情報の種類や発信方法 ・情報をめぐる問題点とその改善 ・目的に応じた情報の選択とその発信
フリー	学校や地域行事	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事への取り組み ・地域社会との関わりと取り組み

＜本年度の主な学習活動＞

3年	<ul style="list-style-type: none"> ・千葉市のいいところを発見! ・生き物博士になろう ・食べたい野菜 調べ隊!
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・エコエコ大作戦～水とともに生きる～ ・1/2成人式をしよう
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・長柄町の自然に親しもう ・その時、命を守る! ・共に生きる
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・鴨川の歴史と文化にふれよう ・夢への一歩～生きるってどういうこと～ ・自分たちにできること

＜指導方法＞

- ・追求意欲を喚起する課題設定への支援
- ・地域に根差したものや児童が主体的に導き出される体験活動の充実
- ・人との関わりを意識させ、協同的な活動が生まれる学習活動の工夫
- ・相手や目的を意識したまとめ、伝える活動の重視

＜学習の評価＞

- ・振り返りカードを活用した学習過程の評価
- ・ポートフォリオを生かした自己評価
- ・他者評価 相互評価の実施

＜指導体制＞

- ・地域の人材や施設を積極的に活用する。
- ・学級や学年間での報告・相談・連携を強化していく
- ・担任以外の教職員による支援体制確立する

災害想定クエスチョン

資料2

【ルール】

○問題に対して自分なりの考えをもち、YESかNOかで決める。

○YESかNOか自分の考えを友達に伝える。

○なぜ、そうしたのか(YES、NO)を説明し、話し合う。

【約束】

○どんな意見でも、まず認める。

○友達の見解を参考に、考えが変わってもよい。

○1回は必ず発言しよう！

ケース①

1月の寒い日の夕方6時。家にはだれもおらず、あなたは1人で留守番をしています。お腹も空いてきて、そろそろ晩ご飯を食べようとしたその時、大きな揺れを感じました。本だなや食器だな、テレビなど家中の物が倒れます。窓ガラスはひびが入ったり、われたりしています。立ってられない状態が1分間ほど続きました。それからじょじょに揺れは収まりましたが、家の電気は消えてしまっています。

外からは消防車や、救急車のものと思われるサイレンの音が聞こえ始めました。親の携帯電話に連絡してもつながりません。すると、再び強い揺れが起きました。さっきの揺れよりは短い揺れでした。その後も何度もゆれています。あなたは家で待ちますか？

ケース②

あなたは放課後に友達と遊んでいます。今日は少し早く授業が終わる日だったので、遊ぶ時間はたっぷりあります。いろいろなことを友達と楽しんでいました。すると突然、大きな揺れが襲ってきました。あなたは、身を守るための行動をとります。揺れはとても大きく、周りからは何かが倒れる音や、ガラスが割れる音、人たちの悲鳴が聞こえてきます。少しすると「東京湾に大津波警報が発令されました。みなさんは直ちに避難してください」との放送が流れてきました。友達が「いつも避難訓練でやっている通りに、高洲小へ避難しよう」と言いました。あなたは高洲小へ避難しますか？

ケース③

休日に、2グラで遊んでいました。すると突然大きな揺れが起こりました。これまでに体験したことのないような大きな揺れです。とても立ってられません。とっさに身を守るための行動を起こしました。しばらくすると揺れは収まりましたが、その後何度も揺れているようです。不安になったあなたは、近くにいた大人たちが話しているところに行きました。大人たちは「避難しなくても大丈夫だろう」「あの時も、これぐらいは揺れたと思うしね」と言っています。それを聞いたあなたは、大人が言うとおりにしますか？

質問に対して、これまで学習してきたことをもとに自分はどうするのか(YES か NO か)を決めて、自分の考えを書こう！

年 組 名 附 _____

ケース①

YESかNOか	理由
<p>YES!</p> <p>NO!</p>	<p>すぐに家を出る 家の中は、いろいろなものが落ちてきそうだし、火事になるかもしれないから。</p> <p>お母さんはショッピングセンターで仕事をしているのでそこは行きません。</p>

ケース②

YESかNOか	理由
<p>YES!</p> <p>NO!</p>	<p>高洲小へ行きます。高洲小だったら先生や友だちがいるので、大丈夫だ。じゃないけど、小は安心すると思います。</p>

ケース③

YESかNOか	理由
<p>YES!</p> <p>NO!</p>	<p>夫の人が言っていることが全て正しいとは、かぎらない。</p> <p>あぶないかもしれないからひなんする。</p>

書ききれなくなったら裏へGO!

疑問に対して、これまで学習してきたことをもとに自分はどうか(YESかNOか)を決めて、自分の考えを語ろう!

年 組 名前 _____

ケース①

YESかNOか	理由
<p>YES! (あつあつ)</p> <p>NO! (あつあつ)</p>	<p>ゆれがおさまるまで待って、それから外に出る外にはいろいろなものが落ちてくるから(ガラスなど)あわてないで、くつなどをしゅんびして行く</p> <p>ほか災害グッズなどもっていく</p>

ケース②

YESかNOか	理由
<p>YES!</p> <p>NO!</p>	<p>おう、津波がきてるとしたら速く高いところへ避難しないといけないので、高洲小か団地かどちらか近いほうへいく。</p> <p>あとが人ごうな方へいく。</p>

ケース③

YESかNOか	理由
<p>YES!</p> <p>NO!</p>	<p>大人の人にどんなことがあつたら説明したいけど津波がきていたら時間が少ないので、にげたほうがいいと言つて、自分は走つてにげる、かんぼうで高いところに</p>

書ききれなくなつたら裏へGO!

揺れている時に行動することが危険であること、津波が起こつたときの非難の仕方、迅速に行動しないといけないことなどを、学習を通して知ることができた。

<p>発表を聞いて、「初めて知ったこと」や「分かったこと」 「感想」を聞かせてください！</p> <p>将来予想はいろいろあるけれど、 よく調べてあるのと思いました。 参考にいて、今後に備えたいと 思いました。</p>	<p>発表を聞いて、「初めて知ったこと」や「分かったこと」 「感想」を聞かせてください！</p> <p>防災や非常会のこと？ 知らないことがいろいろある。 おもしろかったです。 飲み水づくりのこともいいです？</p>
<p>発表を聞いて、「初めて知ったこと」や「分かったこと」 「感想」を聞かせてください！</p> <p>おうえん当りのやり方が実際に 体験しているのが先です。 おもしろかったです。</p>	<p>発表を聞いて、「初めて知ったこと」や「分かったこと」 「感想」を聞かせてください！</p> <p>防災を学ぶ、避難場所、避難ツールを 知ることが多いと思います。 大津波の避難場所、避難人数がわかり 合っているのがいいです。</p>

<p>発表を聞いて、「初めて知ったこと」や「分かったこと」 「感想」を聞かせてください！</p> <p>地震の規模に関係なく、天災は被 害をおこしたことがよくわかりました。 おたふのううおはるが大事だと思っ たり。</p>	<p>発表を聞いて、「初めて知ったこと」や「分かったこと」 「感想」を聞かせてください！</p> <p>の排水を各自のトイレ、時間や 手間がかなり取られる写真の 1件10分くらいは可なりと可なり です。</p>
<p>発表を聞いて、「初めて知ったこと」や「分かったこと」 「感想」を聞かせてください！</p> <p>避難場所や収容人数など よくわかりました。よく調べてあると 思いました。</p>	<p>発表を聞いて、「初めて知ったこと」や「分かったこと」 「感想」を聞かせてください！</p> <p>避難するときのポイントがよくわかり ました。自分ら住んでいる地域の 避難場所もわかるのでよか かったです。</p>

その時、命を守る ～いつか起こる地震のために～

＜学習を振り返って＞ 名前

① 「その時、命を守る～いつか起こる地震のために～」の学習を通して、どんなことが身についたと感じましたか？

ホランテアケル一本になってのり、ついで
ひきようになす

② 「その時、命を守る～いつか起こる地震のために～」の学習を通して、これから取り組んでいきたいことや心がけていきたいことは何ですか？

ゴミを分別して捨てることや、早く地震
予知があるホランテアケル一本になす

その時、命を守る ～いつか起こる地震のために～

＜学習を振り返って＞ 名前

① 「その時、命を守る～いつか起こる地震のために～」の学習を通して、どんなことが身についたと感じましたか？

車の中やスーパーなどでの地震がおきたら
どうすればいいのかとかが、地震がおきたら
かやどんな物もよくかかかかかかか

② 「その時、命を守る～いつか起こる地震のために～」の学習を通して、これから取り組んでいきたいことや心がけていきたいことは何ですか？

家ぞくどこかにおしん、家ぞくどこかの命を守
てか、ツヤ非常食なども用意して命を
守る

学習を通して知ったことを今後には生かそうという考えを持ってつことができた

その時、命を守る ～いつか起こる地震のために～

<学習を振り返って>

名前

① 「その時、命を守る～いつか起こる地震のために～」の学習を通して、どんなことが身についてと感じましたか？

災害が来ても逃げかけがどうしよう(どうしようもない)

② 「その時、命を守る～いつか起こる地震のために～」の学習を通して、これから取り組んでいきたいことや、
がけていきたいことは何ですか？

おたししいしんのことをよくしっておまかせしいう
しんがくるかあからないということもわか
るな！あうにしたい。

自身の変化を感じる事が出来た

資料6

学習前と学習後の自己評価の推移

